

富士見市立勝瀬中学校 生徒向け学校だより



青麦プラス

強く素直に
まっすぐに No. 17

明日も いい日だ 勝瀬中！ 前へ！

生徒の皆さんから、メッセージの綴りをもらいました。校長は学校の責任者ですが、実際には生徒の皆さんからすれば、何となく縁の薄い存在ではないかと思えます。授業ももっていないし、もちろん学級もないし、ましてやコロナで表情を見ながら会話をする機会もほとんど持てなかったのも、それは仕方がないことだと思っていましたが、皆さんからのお手紙には「ありがとうございました」「お世話になりました」と、たくさんの感謝の言葉がありました。集会で話したことや「青麦」に書いたことを覚えていると、書いてくれる人もたくさんいてとても嬉しかったです。毎回、結構考えて準備していましたから(^~^)

以前も言霊についてお話したことがありますが、日本では万葉の昔から、言葉には魂があるとされてきました。

ししまの大和の国は 言霊(ことだま)のさきわう国ぞ まさきくありこそ 柿本人麻呂

日本という国は、言葉にすれば、そのとおりに物事がよい方向に向かっていく国だ、という意味ですが、感謝の言葉やねぎらいの言葉を表せる君たちの姿に、勝瀬中学校が、どんどんよい方向に向かっていく予感がします。

さて、振り返れば、この1年間、コロナの中でも生徒諸君がよく活躍してくれました。先日の三年生を送る会の発表はとても、よくできていました。1年生のVTRもとても工夫されてました。人文字は、面白かったですよ。2年生のリアルな熱演も素晴らしかった。会場の飾りつけから演出まで、コロナで制限のある中でもよく仕上げてくださいました。君たちの思いを受け止めた3年生が、君たちのいる校舎の方に体を向けて歌いだし、その3年生の動きに気づいた1, 2年生が、校舎の窓から顔を出して、3年生の歌に耳を傾ける。そんな姿はまるでドラマのようだったことは、この前の「青麦」にも書きました。学校はドラマよりドラマチックです。

この1年間、行事だけではありません。色々な委員会や係りの人たちが、活躍してくれました。安全委員が自ら登下校の安全点検をしたり、ネットトラブルや部活動の委員会が自分たちで学校の問題を解決しようと取り組んだり、校則の見直しにも、先生と一緒に取り組むなど、君たち自身が学校をよくしようと行動する場面が、とても多くなりました。

先生が頑張ったところで、先生の数はずかです。それに比べて生徒は700人以上います。生徒自身が本気になって学校を良くしようとしたら、それはすごい力になります。勝瀬中学校では、そんな動きが始まったようで、とても嬉しいです。是非、4月からも、この動きを止めることなく、先生たちと力を合わせて、勝瀬中学校を盛り立ててほしい。

勝瀬中学校、面目躍如です。

令和4年3月25日（金）

一方で、一人ひとりの成長は、どうでしょう。特に勉強については家庭学習の取り組みを始めてはいるものの、自分で勉強していく力は、まだまだです。言われたから勉強する、高校に行かなければいけないから勉強するという考え方から、抜け出せない人がいます。自分で勉強できないから、塾に行って何とかしようとする…これも勉強する姿勢としては、間違っています。

今朝の新聞には、隣の国がまたミサイルを発射したという記事がありました。知ってのとおり、ウクライナとロシアが戦争をはじめて多くの犠牲者が出ています。今、まさにウクライナのたちは自分の国を守るために戦っています。遠くの話と思ってはいけません。日本はロシア、中国、台湾、北朝鮮と、世界の中でも、警戒されている国々と海を隔て接し、実は大変不安定な場所に位置しています。恐らく、君たちが成人し、社会の中心で働き始めるころ、大きな決断を迫られる時がくるでしょう。環境問題や自然災害への対応も避けて通れない課題となるでしょう。君たちが大人になって、こういう課題に対して、正しく解決し、自分も社会も生かしていくために勉強するのは、もし、知識も知恵も判断する力もなければ、悪意の情報に流され、利用され、奪われ、今の平和で豊かな日本で有り続けることは難しい。だからしっかり勉強しなければなりません。

少年老い易く 学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず

未だ覚めず 池塘(ちとう)春草の夢 階前(かいぜん)の梧葉(ごよう)すでに秋声

人はあっという間に成長するけれど、勉強したところを身につけるのは大変だ。だから、ちょっとした時間も無駄にしないようにしなければならない。池のほとりで昼寝しているうちに、あっという間に階段の前にある桐の葉っぱは黄色くなって、秋風が吹いてくる…。学びの時間は限られています。恐らく今を外すと学び機会は圧倒的に少なくなるはずだ。

年々歳々花相似たり 年々歳々人同じからず

桜の花は毎年同じように咲いているけれど、見ている人は、もうすでに 去年の人ではない。別人という意味でもあるし、1年前の自分ではなく、すでに別の自分になっているという意味にもとれます。花は変わらず咲くけれど、人は年々変わっていくということです。もうすぐ、校庭の桜や砂川堀沿いの桜が咲き始めます。一年前の自分からどれほど成長したか、桜の花を見ながら振り返ってみてください。

私自身、この1年様々なことに取り組んで、学校も少し変えることができました。さて、来年はどうなるか… 年々歳々花相似たり 年々歳々人おなじからず です。

最後に前回は、学校便りで紹介した「今日はいいい日」という詩をもう一度、ここに記して、この「青麦」もしめくりたいと思います。

今日はいいい日なんだと思う いい日なんだから 元気を出そうと思う

今日はいいい日なんだと思うから 元気が出て 努力して今日が充実する

そして充実した今日が 明日もいいい日の 希望を与えてくれる

君たちが学校を出た後の人生は、おそらく、思い悩み、辛いなあ、大変だなあと思うときの方が、圧倒的に多いと思います。それが「生きる」ということでもあります。

でも、人は心の持ちようで、そんな思いも乗り越えていける生き物です。「今日はいいい日なんだ」と、つぶやきながら、生きていってほしいと願っています。

1年間、みんなよく頑張りました。ありがとう。



*この「青麦プラス」は保護者にお渡しして必ず読んでいただけてください。